

男女共同参画

地域の防災力向上に女性の力を

企画課男女共同参画推進室

☎ 23 | 3917

近年、南海トラフ地震の発生が心配されるなか、防災意識が高まっています。これまで日本は、大震災や台風など、多くの自然災害を経験しています。

災害発生時の対応では、力が必要とされる場面が多く、これまでの防災体制は男性主導で考えられてきました。そのため、男女共同参画の視点から、さまざまな問題点が浮き彫りになってきています。

例えば、避難所生活で授乳や着替えをするための場所がなかったり、衛生用品などの生活必需品が不足したりするなど、男女で必要なものに違いがあるにもかかわらず、女性への配慮が欠けていました。また、女性だからということ、当然のように食事の準備や清掃などが割り振られることもあったと報告されています。これは、避難所の運営自

体が男性中心だったため、女性の要望が重要視されず、固定的な役割分担意識が強くなってしまうのです。

このような体験を通して、最近では災害対応の現場で女性が活躍し、支援の手が届きにくい高齢者や乳幼児などへの細やかな配慮がなされるようになってきました。また、これまでに培った経験やネットワークを生かした被害者支援も行われています。

防災分野において、女性が果たす役割の大きさを認識し、女性の意思決定の場への参画やリーダーとしての活躍を推進することが重要です。また、平常時から男女共同参画の視点で防災について話し合っておくことも大切です。

女性が男性とともに力を発揮することで、地域の防災力向上を目指しましょう。

